



喜多の埜

歯神社例祭のご案内

来月、六月四日は当神社の飛地（とびち）末社である歯神社の例祭日です。この歯神社は小さな祠（ほこら）のお社で、繁華街の中心、角田町において唯一戦前から残る建物として、梅田の地に今も御鎮座されておられます。

御由緒は江戸時代に、淀川の氾濫があった時に遡り、この歯神社の御神体である巨石がその洪水の流れを歯止めし、水没から梅田の街を守った事から歯止めの神様として慕われた事に由来します。後世、音韻が通じるのを以って「歯痛止めの神様」とも慕われ、更に時代が下がるにつれ、歯のご利益あらたかなるを遠近に知られるようになり、歯の神様「歯神社」として、全国の歯に関わる方々から崇敬されるお社として知られています。

当日は午前十一時より歯神社前にて神事があり、氏子崇敬者をはじめ参列者皆様の歯の健康と、歯ブラシへの感謝の心を御祈願いたします。終了後（十一時十五分頃）に歯ブラシの授与がございます。尚、歯ブラシの授与数は先着百名さま迄とさせて頂いております。皆様のお参りをお待ち申し上げております。

名称 歯神社例祭（通称 歯ブラシ感謝祭）
日時 平成二十年六月四日 午前十一時
場所 大阪市北区角田町二番八号 歯神社
（ユニクロ梅田店 入口横）
備考 歯ブラシ授与は先着百名迄。
お問い合わせ 網敷天神社 御旅所まで

かしわ餅

かしわ餅は端午の節句のお供え物のお菓子の一つで、柏の葉は新芽が出るまでは前年の葉は落ちない事から、家系が絶えないとして特に武家の間で縁起物の樹木とされました。また、柏の葉は大きく、古代においては器の代わりに用いられた事もあり、特にこの季節の青々しいものは青柏として喜ばれました。餅を柏で包むのはその名残といわれています。親から子へと受け継ぐ思いを込めて、かしわ餅を食べればまた違った情緒がありそうです。

五月の旬

神事の際などに神さまにお供えする食べ物等の事を神饌（しんせん）といい、米・酒・塩・水などのお供え物が基本の神饌となります。本来、順番や置き方など色々作法があります。が、古来より日々の感謝を込めて「旬のもの」をお供えする素直な心根こそが、神さまが一番お喜びになられるといわれています。この五月に旬を迎えるものとして、

【野菜】

アスラパラガス、ジャガイモ、春キャベツ、サヤエンドウ、ミツバ、フキ、ゴボウなど。

【果物】

イチジク、枇杷、夏みかん、メロン、露地物のイチゴ、下旬では梅酒用の青梅など。

【魚介類】

タコ（真蛸）、カツオ（初鰹）、鰻、ヤマメ、イサキ、サザエ、春牡蠣など。

【その他】

新茶や薔薇、ツツジなど季節の花が見頃。初夏の日差しの中で、すくすくと伸びる生命力に感謝し、天地の恵みを頂きましょう。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜（神主）

白江 秀知

